

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常設展示：○九州歴史資料館の活動 ○福岡県の考古資料 ○福岡県的美術工芸資料 ○考古基準資料：「西新町遺跡展－韓と倭のクニグニとの接点－」4月17日（金）～8月30日（日）
講 演	九歴講座：各回とも13:30～15:30（第2回を除く）【会場】九州歴史資料館 第1回 6月27日（土）「西新町遺跡古墳時代集落の調査成果」 第2回 7月11日（土）「西新町遺跡と韓半島」 第3回 9月5日（土）「水城跡の調査研究成果」 九歴講座は受講者募集中です。 館長講座：各回とも13:30～15:30【会場】九州歴史資料館 【講師】九州歴史資料館館長 西谷 正 テーマ：邪馬台国への道（平成22年3月まで全12回実施予定） 第1回 4月25日（土）「中国・魏の洛陽城と帯方郡」 第2回 5月23日（土）「韓の国々－魏志韓伝の世界－」 第3回 6月20日（土）「海岸に循いて水行－狗邪韓国－」 第4回 7月25日（土）「始めて一海を渡る－対馬国－」 第5回 8月22日（土）「又、南一海（瀚海）を渡る－支国－」 第6回 9月26日（土）「又、一海を渡る－末盧国－」 館長講座の受講者募集は3月31日で締め切りました。
発掘調査	政庁周辺官衙蔵司地区（6月～）
求 苦 提 資 料 館	常設展示：「求菩提山修験道の世界」 企画展示：2009春の企画展「竹のかたち～大分県在住作家9人の会～」4月14日（火）～5月24日（日） 市民歴史講座：6月～10月の第4土曜日（全5回） 講師：川本英紀氏（みやこ町歴史民俗博物館学芸員） 史跡ガイド活動：（申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします） 〒828-0085 豊前市島井畑247 TEL・FAX 0979-88-3203
甘 木 歴 史 資 料 館	常設展示：「朝倉の歴史」 春のミニ季節展：「あ！サクラ展」3月25日（水）～4月12日（日） 期間中の催しもの：バイオリン・ピアノ・フルートの演奏会（4月4日（土）18:00～19:00）【会場】甘木歴史資料館裏庭（敷物持参） 〒838-0068 朝倉市甘木216-2 TEL・FAX 0946-22-7515
柳 川 古 文 書 館	常設展示：「古文書解剖 ～古文書に書かれていること～」 併設展示：「古賀家のお雛様」～4月5日（日） 古文書読講座：毎月第4日曜日 入門・初級・応用の3コース （※平成21年度の受講者募集は3月20日で締め切りました） 〒832-0021 柳川市隅町71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559

※九州歴史資料館の行事についてはホームページにて随時最新情報を提供しています。
※各館の行事の詳細については直接お問い合わせください。

新九州歴史資料館、小郡市にて着工

福岡県は、九州全域を視野に入れながら、福岡県固有の歴史と伝統文化の調査・研究ならびに、その保存・活用などを行い、時代のニーズに応える新たな諸機能・設備を備えた福岡県の文化財保護行政の拠点施設として、新九州歴史資料館を整備する事業を進めています。現在、小郡市三沢の筑後小郡簡保レクセンター跡地にて建設中です。今年6月に竣工し、平成22年秋以降の開館を目指しています。工事の進捗状況や施設の内容は、ホームページなどで随時広報していきます。



建設中の新九州歴史資料館



九州歴史資料館

所在地 〒818-0118 太宰府市石坂4-7-1
電話 092-923-0404
ファックス 092-923-0448
交通 西鉄太宰府駅下車、徒歩10分
開館時間 9時30分～16時30分（入館は16時まで）
入館料 無 料
休 館 日 月曜日（ただし祝祭日の場合はその翌日）
年 末 年 始（12月28日～1月4日）
臨時休館 平成21年4月14日（火）～16日（木）
平成21年9月1日（火）～3日（木）

平成21年度企画展「西新町遺跡展－韓と倭のクニグニとの接点－」特集号



西新町遺跡とは 一古墳時代初頭における日本最大の国際交流拠点一

西新町遺跡は、福岡県福岡市早良区西新の、博多湾に面した東西に長い標高3～5mの古砂丘上に位置します。これまで福岡県教育委員会及び福岡市教育委員会による22次にわたる発掘調査で、弥生時代後期末～古墳時代前期（約1,800～1,600年前）が最盛期の大規模な集落を確認しました。調査では、日本列島における古墳時代前期の竪穴住居跡にはほとんど例のないカマド付竪穴住居跡や韓半島産の瓦質・陶質・軟質土器、ガラス玉鑄型、板状鉄斧、中国の貨幣など多くの中国・韓半島系の資料が発見されると同時に、山陰系・瀬戸内系・畿内系土器群など西日本各地との交流が伺える資料が多量に出土しています。このことから、古墳時代初頭において、当遺跡は「倭」諸国全体の対外交流及び列島内交流の一大拠点であったことが想定されています。

当遺跡の形成は、弥生時代中期（約2,000年前）の集落・甕棺墓地から始まりますが、今回の展示では遺跡が最も栄えた弥生時代後期末～古墳時代前期の西新町集落及び当遺跡の墓地と考えられる藤崎遺跡の調査成果を中心に紹介し、博多遺跡群など周辺の韓半島系資料が発見された遺跡も同時に検討することで、一大交流拠点であった「西新町遺跡」の実像に迫りたいと思います。

平成21年度企画展「西新町遺跡展－韓と倭のクニグニとの接点－」は、平成21年4月17日（金）～8月30日（日）まで、当館第三室考古基準資料コーナーを会場に開催します。



西新町遺跡出土韓半島系土器



空から見た西新町遺跡（赤線で囲んだ範囲が西新町遺跡で、青線は古墳時代の推定海岸線）



13次調査区全景（旧校舎の基礎の下を発掘調査しました）



13次71号竪穴住居跡カマド（手前の石が立っている所が焚口で、そこから長い煙道が伸びています）



12次22号竪穴住居跡カマド（住居隅に付くタイプのカマドです）



12次132号竪穴住居跡（偏在炉）

1 西新町遺跡と韓半島

3・4世紀の韓半島では、北部では313年に高句麗が楽浪郡を滅ぼし、中南部では馬韓・弁韓・辰韓という地域が国に成長します（右図）。この時代の韓半島の土器は、これらの地域に対応するように地域色が豊かで、当遺跡でも馬韓系や弁辰系の多種多様な韓半島系土器が出土しています。遺跡全体では馬韓系の土器の割合が多い傾向にありますが、集落内では馬韓系が多いエリアと弁辰系が多いエリアに区分できることが指摘されています。

また、日本列島内でのカマドの普及は基本的に古墳時代中期以降ですが、当遺跡では古墳時代前期のカマド付竪穴住居跡が計106棟（住居跡総数の約20%）検出されていることが大きな特徴です。特に、韓半島において「オンドル状遺構」と呼ばれる住居隅に向かって長い煙道が伸びたカマドと多孔式甕の存在から、韓半島からいち早くカマドという新たな炊事形態を導入したと考えられますが、カマドが周辺に広がることはなく、当遺跡の特殊性を物語っています。

さらに板状鉄斧や土製ガラス小玉・勾玉鑄型、中国の貨幣である五銖銭・貨泉など多くの中国・韓半島系の遺物が発見されています。このことから、当遺跡には韓半島からの渡来人が居住し、在地のの人々と交流・共存していた状況が想定されます。

しかし、4世紀後半になると畿内ヤマト王権が直接対外交渉を行うようになったため、当遺跡は急激に衰退し、消滅したと考えられます。



14次井戸



「西新町遺跡展－韓と倭のクニグニとの接点－」展示関係遺跡地図

今回の展示にあたって、ご協力いただいた機関

福岡市教育委員会（福岡市埋蔵文化財センター）・福岡市博物館・春日市教育委員会・前原市教育委員会（伊都国歴史博物館）・宗像市教育委員会（市民協働部市民活動推進課）・千葉県木更津市教育委員会・福岡県立修猷館高等学校・修猷館同窓会（修猷資料館）・九州国立博物館・福岡県教育庁総務部文化財保護課（順不同）

企画展「西新町遺跡展－韓と倭のクニグニとの接点－」関連九歴講座

各回とも13:00受付開始、講座は13:30～15:30まで

第1回：6月27日（土）「西新町遺跡古墳時代集落の調査成果」重藤輝行（佐賀大学）

西新町遺跡古墳時代集落の中心地区であった福岡県立修猷館高校内の発掘調査を担当した講師が、その調査成果についてスライドを交え紹介します。

第2回：7月11日（土）「西新町遺跡と韓半島」西谷正（当館館長）

西谷正館長が、西新町遺跡で発見された韓半島系の遺構・遺物の中でも特にカマドを取り上げ、3・4世紀における韓半島と日本との交流について紹介します。

上記講座への申込方法については、九歴HP（<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/index.html>）か九歴講座担当まで電話（TEL092-923-0404）でお問い合わせ下さい。



12次96号住居跡P3出土玉原石



西新町遺跡出土勾玉製作資料



西新町遺跡出土石錘（漁業用の錘）

2 西新町遺跡と倭のクニグニ

西新町遺跡では、在地の土器に加え山陰・瀬戸内・畿内系などの外来系土器や大阪湾岸から伝わった飯蛸壺、瀬戸内海から伝わった製塩土器などが多数出土しています。このことから、古墳時代前期には西日本各地と当遺跡との間に活発な交流が成立し、遺跡内には畿内や山陰などの他地域出身の人々が居住していたと考えられます。特に、山陰系の土器は器種がそろっており、また山陰系の蛇紋岩製勾玉づくりや当遺跡周辺で使用された特徴的な漁業用錘が山陰に分布することなどから、当遺跡の集団と山陰地域との密接な関係を想定できます。

また、石錘や飯蛸壺など多量の漁労具の出土は、韓半島や西日本各地の人・物・情報をこの地にもたらしたのは、漁労民であったと考えられます。

3 西新町集落の墓地

藤崎遺跡は西新町遺跡と同一の砂丘上に位置し、これまでに西新町遺跡の古墳時代集落とほぼ同時期の方形周溝墓が18基検出されています。このうち、3次6号方形周溝墓では三角縁二神二車馬鏡1面が出土し、32次1号方形周溝墓はかつて三角縁複波文帯盤龍鏡1面が出土した遺構であると想定されています。藤崎遺跡のような比較的小規模な古墳に、畿内から配布されたと考えられる三角縁神獸鏡などの大形鏡が副葬されることは珍しく、韓半島との交易に占める西新町遺跡の重要性を示していると言えます。



西新町遺跡出土ガラス勾玉・小玉鑄型



西新町遺跡出土青銅器（中央が五銖銭、右下が貨泉）



西新町遺跡出土山陰系土器



西新町遺跡出土畿内系土器



藤崎遺跡3次6号方形周溝墓（福岡市教育委員会提供）



藤崎遺跡3次6号方形周溝墓出土三角縁二神二車馬鏡（福岡市教育委員会提供）



西新町遺跡出土飯蛸壺